



高島市地区 赤十字奉仕団だより

第12号
令和6年3月

さあ できることから始めよう!

万が一に備えて

日赤滋賀県支部の講師を
お招きし、心肺蘇生法を
学びました



混沌の世界へ

令和6年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震において、亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げ、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

ロシアのウクライナ軍事侵攻が続く中、さらにイスラエル・ガザの戦争状態突入が加わるという世界情勢が不安定な昨今、私達が担う赤十字の使命「人間のいのちと健康、尊厳を守る」の重要性を再認識しています。

さらに地球温暖化が沸騰化と言われる地球環境激変がもたらす干ばつ、大規模森林火災、未曾有の豪雨による大洪水など、大災害の激増は決して他人事ではなく、防災・減災への取り組み、意識の向上は不可欠と決意を新たにしております。

私たち奉仕団は「地域のみならずと繋がり、支えあい、行動する」のスローガンや「さあできることから始めよう」の言葉の下、地域になくなくてはならない奉仕団として発展を目指し、日頃から数々の活動に取り組んでいます。奉仕団だよりではその一部をご紹介します。

また、奉仕団では共に活動して下さる方を募集しております。興味があれば「一隅を照らす」仲間になりませんか？お力添えをよろしくお願い申し上げます。



赤十字奉仕団
高島市地区委員会
委員長 栗原 勲

令和5年度 高島市地区 赤十字奉仕団 一日研修会

令和5年6月30日に「マキノ土に学ぶ里研修センター」で今年度の高島市地区赤十字奉仕団一日研修会を開催しました。

箕浦指導講師を招き「奉仕団が抱えている課題」について講演をいただいた後、朽木地域から活動発表を行いました。

現在、どこの団でも団員の減少が著しく、新しい団員の確保も難しい状況の中、これから奉仕団がどう進むべきか改めて考えさせられた研修でした。



箕浦講師



澤本団員

子どもたちの笑顔あふれる 高島子どもフェスティバル

令和5年10月15日に高島公民館で高島子どもフェスティバルが昨年に続き開催されました。

奉仕団は、体験活動の中ホールで担当しました。大ホールではステージ発表もあり、ご家族連れで大勢の方が来場されました。

赤十字の救護服や看護学生さんの実習服の試着、ぬり絵やあやとり、ぬいぐるみなどのプレゼントもあり、子どもさんの笑顔に私たちも心温まる一日でした。



試着の
様子

心肺蘇生法等を学び、備える 災害支援 講習会

令和5年10月19日に今津東コミュニティセンターで、日本赤十字社滋賀県支部の方々を講師に招き、AEDを使って救命率を向上させることの大切さを学びました。

いざその場面に遭遇すると慌ててしまい適切な対応ができなくなるので、何回も繰り返し学ぶことが大事だと思いました。



AEDの講習を受ける様子

防災について知る 高島市地区委員会委員研修

令和5年12月7日に高島市地区委員会の委員研修として各地域の委員長・副委員長計17名で、北部地域総合消防防災センター（大津）を訪れました。

煙が充満した迷路部屋からの脱出で得たことは「鼻口を覆い」「しゃがむ（這う）」程度の低さになり、壁に沿って避難する、その際必ず「右（左）に壁面」と決めて進行すれば必ず脱出できる、何も見えない煙中を生き延びるためには、途中で左右切り替えてはいけないということです。よい体験ができました。



煙体験の様子

マキノ中学校で 防災訓練・収穫祭

マキノ

秋晴れの下、防災を通じて地域との交流を深める「防災訓練・収穫祭」をマキノ中学校で実施しました。

生徒が育てたさつまいも収穫祭と、私たちが日頃実践している防災訓練の共同で、地元の園児や小学校の児童を招き、地域一体の活動となりました。

ロケットストーブを活用した非常食作りや、竹とシートによる簡易担架作りは人気の訓練でした。防災意識を高める消火訓練や生徒会の学習コーナー等もあり、有意義な交流の一日でした。



小中学生と 自然保護活動

今津

今津赤十字奉仕団では初めての取り組みとして、住民自治協議会、民生委員や地域の皆さまなどと連携し、今津の貴重な自然であるハマビルガオの保護、特定外来植物ナガエツルノゲイトウの駆除を小中学校の生徒さんと行いました。

守るべき地元の自然の大切さを未来を担う子どもたちに感じてもらうとても良い機会となりました。



介護施設の 草取りと防災研修

朽木

今年も介護施設の草取り作業後、防災研修を行いました。

小型飯ごう（メスティン）を使った炊飯、ロケットストーブでのカレー作りと蒸しパン作り。団員と共に小中学生と保護者にも参加していただき、楽しく有意義な研修となりました。

参加者からは「楽しかった」「参加して良かった」との声をいただき嬉しく、何よりも今回の活動が次の世代へ繋がる事を願うばかりです。



ふじの里ふれまち 地域交流事業

安川

介護施設「ふじの里」の防災設備の紹介として、3日間は電気・ガスが供給できる設備を使い、カレー作りをさせていただきました。

1つの釜で8升の米を炊き、1つの鍋で150食のカレーを煮るのは今まで経験した事がなく、ガスとはいえ火加減調整、また分配も体験をしておかないと「いざ」という時には、しっかりした配給ができないと感じました。

定期的このような機会を設け、団員の方々に経験をしていただきたいと思います。



第2回 大溝まち づくりマルシェ

高島

10月末に「第2回大溝まちづくりマルシェ」が開催され、当奉仕団も参加し、日用品、おもちゃ、観葉植物などバザー販売で賑わいました。

収益金・寄付金はすべて国内外の救援金に充てさせていただきました。

他団体と一緒に活動することで、日赤の活動の一環に触れていただくことができました。

また、高島支所前の花壇の整備を行い、花を植えました。市民の皆様楽しんでいただければと思っています。



北畑区の防災訓練で ロケットストーブを 実演

新旭

北畑区の防災訓練時に「区行事の目玉として、何か若い人、子どもたちの興味を惹く企画はないか」と区の役員さんから市への問い合わせがあり、実現しました。

ロケットストーブを使用した炊飯実演は、若い世代の関心も高く、大盛況でした。

この記事を見て興味を持たれた場合はご連絡ください。できるだけ出張・対応させていただきます。

【お問合せ先】

高島市社会福祉課内

(0740-25-8120)



男性団員の交流活動

男性団員は市全体でもまだ50数名以下と女性団員に比べると少数ですが、男性ならではの力量、技量を生かした非常時対応への備えが望まれているところです。

今年度も昨年度に引き続き「びわこを美しくする運動」に参加しました。春先から原則月一回の実施で、今年は初めて朽木地域の清掃が実現の運びとなりました。

どの地域も一見したところ何も無いようできて、草むらや目立たないところに空き缶や瓶、ペットボトルがポイ捨て状態で、マナーの悪さに参加者一同毎回ため息です。



ようこそ愛荘町奉仕団 特別一日研修会・交流会

市内の赤十字奉仕団では、大規模災害でいざという時の炊き出しの熱源となる「ロケットストーブ作成」の普及を進めています。

令和5年10月31日に、愛荘町からマキノ土に学が里研修センターに来所され、ロケットストーブを製作しました。男性団員の力を発揮し、わいわいがやがやと賑やかな空気の中、素晴らしい作品が生まれました。女性団員と共に非常食を作成し、手軽な防災食をふるまいました。

高島市と愛荘町の団員30名あまりで課題を出し合い、交流できたことは貴重な学びの機会でした。このような企画を今後どんどん実施できればと願います。



交流会の様子



～ぜひ、あなたの力を お貸してください！～

団員募集

高島市地域全体で団員を募集しています！

人の役に立つことがやってみたい！
自分の住んでいる地域を支えたい！

そんな時はぜひ赤十字奉仕団の活動にご参加ください！

高島市では30代～80代の幅広い団員が性別や年齢を問わず、様々な活動を行っています。

少しでも興味があれば、社会福祉課までお問い合わせください。



日本赤十字社キャラクター
ハートラちゃん

お問合せ先

市役所社会福祉課内

(0740-25-8120)

あたたかいご支援ありがとうございます

令和6年1月に市内商業施設店頭で「令和6年能登半島地震災害義援金」の街頭募金を行いました。いただいた義援金はすべて日本赤十字社を通じて被災地の方々の生活支援に使用されます。

R5.1月～R5.12月分

トルコ・シリア地震救援金 ほか … 424,636円

うち、赤十字奉仕団の街頭募金 … 313,570円

(高島市災害ボランティア活動連絡協議会協力)

編集後記

この2年間は少しずつですが奉仕団の活動ができるようになり、一日研修会、交流会、災害支援講習会などを開催することができました。

また、各地域でのそれぞれの活動の中で、団員相互の絆を深め合いながら「奉仕の心」を誇りに思い、楽しく活動できましたことに感謝しています。これからも団員増を目指して輪を広げ一緒に活動していきましょつ。

(広報委員一同)

赤十字奉仕団 高島地区委員会 委員名簿

新 旭	高 島	安 曇 川	朽 木	今 津	マキノ
岡 足 葉	八 林 辻	保 清 伊	栗 伴 若	飯 前 川	林 池 谷
田 立 原	田 木 水 香	本 林 田 川 田	本 口		
典 功 子	和 喜 和 代 子	洋 登 悦 茂 子	ひ 眞 美 子	三 好 育 好 子	明 み 美 枝